居合道だより

第 190 号

はじめに

不確実性が増す時代（いま）こそ居合（武道）の心を

居合道部理事　川路　俊博

平成から令和の時代に移りましたが、昨今はとみに世の中が不安定な状態に進んでいるように思います。感染症（オミクロン株）、戦争・内戦（ウクライナ、ミャンマーなど）、地震（東北新幹線の脱線線事故や広域停電）、豪雨災害の多発（熊本、九州北部）などがあります。また、これらに派生して物流の停滞や景気減速と資源高や穀物高によるインフレ懸念がマスコミにより声高に語られ、混沌とした世の動きになり、この先どうなるのであろうかと不安になる日々です。

☆　切所（せつしょ）と人の生き方

切所とは、本来は「山道での難所」を意味するものですが、ここでは、不慮の事故、災害、仕事の失敗、病気、左遷などといった人生の危機として使ってみます。私は昔風で言うとロートル（老頭児）です。この齢になっても切所に会した場合、ときとして心が乱れ判断を誤ったりもします。

この対処の根本は、切所に出くわして心が動転して臆病風にとりつかれ逃げだしたりしたら勝負あり、もう負けとなります。齢を重ねてきて、人の上に立つものが持たねばならぬものは「どんな時でも心を動転させない心構え」です。しかし言うは易く行いは難しです。切所に出会った時の態度・行動でその人の人格が知れます。中国の儒学者、呂慎吾はその著書「呻吟語」で人物観察法を次のように述べています。

大事・難事には担当を看る。逆境・順境には襟度を看る。

臨喜・臨怒には涵養を看る。群行・群止には識見を看る。　(修身)

『困難ぶつかったとき、その人がどれだけの重圧のある仕事に耐えられるかの力量が分る。逆境や順境における身の処し方で心の広さや度量のほどが知られる。怒ったり喜んだりしたとき、その人の身についた教養が現れる。集団の動きの中で、その人が物事を正しく判断できるかどうかの見識が明らかになる。』

冷眼事を看るのとおり、けだし名言であります。切所に会したときの身の処し方で、人の値打ちが決まるものでありましょう。

☆　たんだ踏みこめ神妙の剣（柳生流）

ことに臨んでの腹の据え方については、昔の武士(いにしえ　もののふ)の心にふれてみるのが一番と思います。「生を明らめ死を明らめるは、剣者一大事の因縁」と言われているように、常に生死の巌頭に立ち朝鍛夕錬の業と心を練った武士の心です。その心は、古来より多くの剣聖が残した名言や道歌などにあります。そして時代を超越して私たちに語りかけています。

この数々の訓えは人生訓と重なります。その中でも私の現役時代に心の支えとなったのが上述した「たんだ踏込め神妙の剣」でした。切所に遭遇してお先真っ暗になったとき一歩前に背中を押してくれました。柳生流の合撃(相

打ち）の精神で身を捨てて、たんだ踏込むことこそ大道であるとの訓（おしえ）であります。（この解説は剣道範士井上正孝先生のものが琴線にふれました。）

世の中は理不尽なことが多いし、人生では災難に見舞われます。しかし、切所に会したら逃げないでその事実をしっかり受け止め、その対処に全力を尽くします。逃げたら災難が追いかけて来て、更に心が苦しくなります。受け止めて対処すると心が楽になります。私たちの生活においても、対人関係や交渉などでも、いつも消極的で身の安泰を願う心は死に体（負け）になります。

☆　凡（およ）そ二つ一つの場合には、早く死ぬ方（かた）に片づくなり（葉隠）

同じような言葉に「“軒を出ずれば死人の中、門を出ずれば敵を見る。”となり。用心の事にあらず、前方死しておく事なりと。」とあります。葉隠は逆説的な言い回しで有名ですが、これは簡単に死んでしまえというのでなく、生死の厳頭に立ったとき必死の決意をすると「胸すわりて進む」ことができる。従って進退かけ引きが自由になり、結局勝てると教えています。

☆　錬気養心、武道（非日常）の心得を日常の行動へ

いま世の風潮を踏まえますと、これからも平和で安穏の日々が続くことが当然のように思い、ややもすると精神面は弛緩して脆くなりつつあるのではないか思います。しかし世の中はお釈迦様の説かれるとおり一切皆苦（いっさいかいく）（人生は思い通りにならない）でありますし、寸善尺魔の世界です。

先に武道における先人の教えを二つ紹介しましたが、私たち居合道を修める者は世情が混沌として先の見えない今こそ、気を錬り物事に動じない心（錬気養心）を昔の武人（常在戦場）の心得・訓（おしえ）から学び、それを常に心中に含み、

勇気をもって日常の行動（処世の道）に移すよう心がけていきたいものです。

例えば、ビジネスにおいては、「先を取る」「間と間合い」などは最も大事な事柄になります。重要な仕事を商売敵に先を越されたり、間を逸したため契約が破棄になったりします。日常の生活でも、対人関係でも間と間合いが大切です。人（敵）に対するときは遠間から入ります。「用心の間合い」を忘れてはなりません。世の中すべて間の戦いであり、間合いの取り合いです。

客先や職場では暴言・侮辱などパワハラに近いことがよく起こります。この言葉をまともに受けると切られます（傷つきます）し、挙句は口論・喧嘩にもなりかねません。失敬な態度や言葉にいちいち腹を立てる必要はありません。無教養な人が目の前にいるだけです。醒めた気持ちで「受け流し」を行い、わが身を切られないようにします。そのあと相手を切るか否かはこちらが上位になり、自由度が広がります。ここが肝要であります。

居合道や武道は道場のみ、日常生活は別であると頭（意識）で区別せず、武道に携わる先人が遺された言葉（名言、教訓など）を心理面で活用し、仕事や生活などの日常行動に置き換えてみます。更にそのことを実践・継続することにより、個人として肚のすわった、有意義で楽しく活きる力（人間形成）が養われましょう。

また、若い剣士の皆さんは話し言葉の中に武道からの語源が多くあることに気づかれていますか。自分の流派の武道訓や古典に親しんでいただけたら、何かしら得ることがあると思います。

（当を得ないことを反省しながらの筆者の個人的な見解です。識見豊かな剣友の方々はご容赦を。）

５月・６月の予定

５月２－５日	第１１７回全日本剣道演武大会 （一般の見学はできません）	全剣蓮	京都市
５月　３日	居合道八段審査会	全剣連	京都市
５月２２日	居合道部理事会・総会	居合道部 立岩交流センター	
５月２９日	福岡県居合道講習会 および称号講習会・級審査	福剣連 福岡市民体育館	
６月 11 日	（公社）福岡県剣道連盟「総会」	福剣連	

編集後記

4月が終わり、あっという間に1年の三分の一がすぎました。コロナもなかなか勢力が衰えず、もどかしい日が続いております。私自身、3回目のワクチン接種も終わり、出張などに出るときは忘れず「抗原検査キット」で検査してから出るようにしています。

残念ながら武道祭は中止になりましたが、地域のイベントなど徐々に復活して、ドンタクなども開催されるようです。

ちなみに博多会場のメインMCは近々みなさまにお名前をご紹介することになる方です。是非お立ち寄りください。

八段審査受けられる先生方は、平常心でいつものパフォーマンスができるようにと、部員一同ご武運をお祈りいたします。

© 公益社団法人　福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟　居合道部
第１９０号　令和４年５月発行
発　行：福岡県剣道連盟居合道部
URL : http://riai.info/
発行人：井手友太
〒 819-1132　糸島市有田 36 番地 -1
TEL:092-322-0847
編　集：有限会社 FEW